

I. 事業の目的

地球温暖化を防止するためには、県民一人ひとりが地球温暖化について理解を深め、生活を足もとから見直し、地球温暖化防止に向けて行動することが重要である。

このため、県及び（公財）とやま環境財団では、平成16年度から、子供の頃からこの問題への関心を高めることを目的として、「とやま環境チャレンジ10」を、小学校、地球温暖化防止活動推進員及び市町村と連携して実施した。

II. 事業の内容

1. 概要

「とやま環境チャレンジ10」では、県内の10歳の児童(小学校4年生)が、地球温暖化問題を学び、目標を決めて家族とともに家庭での10の対策を4週間実践・自己評価するという一連の取組を通じて、環境に配慮したライフスタイルを理解し、地球温暖化防止に向けた家族ぐるみの取組の推進を図っている。今年度は、併せて、食品ロス削減についても実施した。

2. 参加者

県内の63校の小学校から、2,710名の児童及びその家族が参加した。

【実施校】

市町村名	小学校名	市町村名	小学校名	市町村名	小学校名
富山市 (21校)	新庄北小学校	高岡市 (15校)	五位小学校	黒部市 (2校)	桜井小学校
	神通碧小学校		千鳥丘小学校	宇奈月小学校	
	八幡小学校		福岡小学校	砺波市 (2校)	庄東小学校
	柳町小学校		横田小学校	庄川小学校	
	朝日小学校		博労小学校	小矢部市	石動小学校
	福沢小学校		木津小学校	南砺市 (2校)	福光中部小学校
	鶉坂小学校		万葉小学校	利賀小学校	
	寒江小学校		能町小学校	射水市 (5校)	作道小学校
	桜谷小学校		野村小学校		塚原小学校
	倉垣小学校		平米小学校		歌の森小学校
	池多小学校		定塚小学校		大門小学校
	熊野小学校		伏木小学校		下村小学校
	音川小学校		古府小学校	舟橋村	舟橋小学校
	檜尾小学校		戸出東部小学校	上市町 (2校)	白萩西部小学校
	月岡小学校		中田小学校	南加積小学校	
	上条小学校	魚津市 (2校)	星の杜小学校	立山町 (2校)	利田小学校
	奥田北小学校		清流小学校	釜ヶ淵小学校	
	大沢野小学校	氷見市 (2校)	海峰小学校	入善町 (2校)	入善小学校
	草島小学校		窪小学校	黒東小学校	
	東部小学校	滑川市 (3校)	東加積小学校	朝日町	さみさと小学校
	神保小学校		南部小学校		
西部小学校					

3. 事業の流れ

(1) 地球温暖化に関する授業（環境チャレンジ教室）【8月～10月】

地球温暖化のしくみや家庭でできる地球温暖化防止の取組等に関して、地球温暖化防止活動推進員※（以下「推進員」という。）や小学校の教諭が、各小学校で授業を実施した。

テキストとして、「副読本 地球温暖化を止めるため 家族みんなでチャレンジ！」（資料1）や推進員自作の資料などを使用した。

なお、推進員が授業を実施するにあたり、担当教諭、推進員を交えた事前説明会を8月に4会場（富山、高岡、魚津、南砺）で開催した。

※ 推進員は県知事から委嘱され、地域において地球温暖化防止に関する住民への普及啓発や調査、指導及び助言等を行う。（現在 87 名）

(2) 家庭での取組内容の決定

授業を受けた児童が、富山県が推進している「家族団らんを心がける」「ムダなあかりを消す」「買い物にはマイバッグを持っていく」「ご飯を残さず食べる」4つの必須取組と、家族と相談の上、自ら決定する6つの取組の計10項目を地球温暖化対策の取組として設定する。あわせて「とりくみノート」（資料3）に、その内容を記載した。

(3) 家庭での実践【8月～2月の期間内1週間～4週間】

児童が家族とともに、家庭での取組を、小学校側で設定した期間（1週間～4週間）実践するとともに、取組状況について、毎週「よくできた」「まあまあできた」「できなかった」の3段階のチェックシール（資料4）を貼り、自己評価を行った。

(4) 取組結果の回収

取組期間終了後、「とりくみノート」を回収し、集計するとともに、児童、家族、学校に対して、地球温暖化に対する意識や取組の感想等についてアンケート調査を実施した。

(5) 取組結果のふり返し【10月～3月】

各小学校の実施結果を取りまとめ、「チャレンジ10通信」として各校・児童に配布した。

なお、(4) 取組結果の回収については、実施結果の取りまとめを希望する小学校のみ行った。